

有明海における魚介類が減少した時期は、熊本新港や筑後大堰などの大型公共事業やノリの酸処理剤使用開始時期と一致。

- 1 ノリの生産量は平成12年漁期（平成12年11月～平成13年4月生産）の不作を除けば一貫して増加傾向。
- 2 貝類漁獲量の減少傾向は、諫早湾干拓事業が開始されるずっと前から始まっている。
- 3 ノリ養殖への酸処理剤の使用が、貝類等の漁獲量減少に大きく影響しているとの指摘もある。

